

赤沼の獄舎跡

獄舎跡のあるところは現在は東台に繰り入れられてあるが、以前は赤沼町と呼ばれていた、桜川は現在は改修されて真っ直ぐに那珂川に流れているが。河川改修の前には図面にある様に石垣橋からコの字形に曲がって流れていた、その赤沼町の一角に獄舎はあつたがこの獄舎は元は左竹時代からの牢であつたが、徳川の施政下になつても牢獄として町奉行が支配していた。此処は罪人を収監して置く刑務所であつた、従つて処刑する際には境橋（波井と吉沼と谷田組の三集落の境を流れる新川にかかる橋）周辺にあつた刑場でおこなわれたが、幕末の騒乱時には「天狗党」も「書生党」も多くの人が獄舎内で死罪になつた。首をきり落される状況は高橋箒庵（義雄）の著書「箒のあと」に記されている。また当時の悲惨な状況や赤沼と言う名称の起りについては水戸市役所発行の「水戸の町名」を参考にして下さい。

